資料1

1 明るく元気な地域づくり

1-① 隣近所との交流

1-② 人が集い交流しあう拠点づくり

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	ふれあい いきいきサロン 助成事業	社協	身近な地域で仲間づくりや生きがいづくりの拠点の場としてのサロン活動を支援する。	 ・サロンの運営支援(報告書及び次年度申請書作成の相談受付、必要に応じた助言、情報提供等) ・地域の茶の間・いきいきサロン助成事業個別相談会日時令和7年3月21日(金)、24(月)、25日(火)予定 	・助成を受けているサロンは57ヶ所 ・助成申請の負担を軽減するために、報告書様式について本部、各区社協と検討することができた。 ・継続運営の難しさを抱える団体へ引き続き支援する。
2	ふれあい いきいきサロン 立ち上げ支援		高齢者等の閉じこもり防止や仲間づくり促進を目的として、居場所の意義を発信し、交流の場を求める地域へ、立ち上げまでの支援を行う。	・新規立上げ: 4ヵ所	・サロン立ち上げ支援を継続する。
3	げんきに育つ親 も子も 〜妊娠期から支 え、見守る〜 令和6年 主要事業	児童福祉係	妊娠期からの母子を支援する体制を つくり、各種子育て支援事業を実施する ことで、親も親として育つことを支え、子 育ての不安感や負担感を軽減し、地域 で安心して子育てできるようサポートす る。	回数:18回、参加名:184人 ・デイケアルーム 回数:18回、参加者107人 ・子育てサポーター訪問事業 養成講座4回実施、受講者延39人 訪問 人 ** - 218 人	・区内中学校区ごとに行っている子育てサロンは、パパママプチ講座と合わせて各会場で今後も実施する。 ・産前産後の母親向けのリフレッシュ事業は好評であり、引き続き実施する。 ・子育てサポーター訪問事業は、外出できない保護者の気持ちを受け止めたり、相談先や支援事業を紹介するなど好評であった。今後も引き続き訪問を続ける。 ・子育て支援に関わる事業者、団体、医療機関等が情報共有し地域の子育て支援について理解を深める機会を設ける取組みを今後も実施する。

1一③ 人を支える組織の支援

事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
地域ふれあい事業		住民主体の地域福祉活動を実施した 自治会・町内会に助成し、地域における ふれあい活動を推進する。	・地域これない車業	・地域活動が進められるようになり、自治会・町内会で 多世代交流や顔の見える関係作りの場として活用して もらい、申請件数が昨年度と比較して増加の見込みで ある。 ・引き続き事業の周知をし、地域におけるつながりや助 け合い活動を推進する。

資料1

1-④ 人材の育成とコーディネイト機能の充実

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	地区社協育成· 推進支援事業	社協	地区社会福祉協議会の活動が円滑に できるよう支援・助成する。	・地区社協活動交付金(11地区社協) 交付金額: 各地区前年度社協会員会費納入額の25%+全地区 前年度社協会費納入額総額×5%÷11地区 ・地域福祉活動計画推進事業 申請件数 16件 ・地区社協を主体として、地区担当が関わりながら取り組みを行った。	・年2回地域福祉懇談会(取り組みの確認、反省会)を開催した。 ・地区懇談会等をもとに各地区で地域課題に取り組むことができた。 ・地区社協が様々な地域課題等へ取り組めるよう地区社協交付金を交付する。 ・支え合いのしくみづくりや社会福祉法人公益事業等と連携した地域課題への取り組みを行う。
2	地区社協連絡会議	協	各地区の活動等情報交換や交流を通して、地域における支え合い、助け合いを推進するため、「区社協福祉推進会議」を開催する。	令和6年度は「見守りの重要性」をテーマとして開催 (1)日時 令和6年8月1日(木) 10:00~12:00 会場 新津健康センター はつらつホール (2)日時 令和6年8月2日(金) 14:00~16:00 会場 新津地域交流センター 3階 多目的ホール (3)日時 令和6年8月2日(金) 18:30~20:30 会場 新津地域交流センター 3階 多目的ホール ・内容・基調説明「地域課題の現状と見守りについて」 講師: 新潟医療福祉大学 心理・福祉学部社会福祉学科教授 青木 茂 氏 ・秋葉区社協の活動について 説明: 秋葉区社会福祉協議会職員 ・見守り活動の事例発表 ・意見交換 ・参加者 コミ協・地区社協、自治会長・町内会長、民生委員児童委員、 社協役員、職員 (1)38名 (2)46名 (3)59名	・地域のつながりの希薄化や、孤立死や孤独死の増加 が課題となっている現状、地域でつながりを持つことが 重要であると考えられる。見守り活動の事例発表や意 見交換を実施し、地域で見守り活動に取り組むことの意 義を共有する機会となった。 ・令和7年度も、地域福祉課題(見守り活動等)や共同 募金等を基に、地域における支え合いを検討する。
3	地域福祉推進フォーラム	41	住民一人ひとりが、地域の課題に気づき、互いに共有し、解決しようとする力を身につけることができるよう、地域の繋がりを構築し、支え合う体制を実現するために先進的な事例を学び、効果的な地域活動が連携できるようフォーラムを開催する。	・日時 令和6年12月15日(日)13:30~15:45 ・会場 秋葉区文化会館 ・内容 1.社会福祉功労者表彰 2.シンポジウム 『あきはくの支え合いの実践~地域共生社会を目指して~』 コーディネーター: 新潟医療福祉大学心理・福祉学部社会福祉学科 教授 青木 茂 氏 シンポジスト: 新潟縣信用組合 新潟縣信用組合 新潟縣信用組合 新海支店長 森田 雅美 氏 荻川支店長 岩田 武 氏 舟戸1.2自治会 会長 石井 勝 氏 書記 新井田 さや香 氏 秋葉区社会福祉協議会 支え合いのしくみづくり推進員 小林 湧	・会場参加、オンライン参加のハイブリット形式、情報保障体制も整え、様々な方に安心して参加いただけるよう環境を整えて開催し、266名から参加いただいた。・自治会や企業、支え合いのしくみづくりのそれぞれの地域課題に対する実践を発信し、これからの地域福祉活動のあり方を考える機会や、取り組みに向けたきっかけとなった。・今後も地域における先進的な取り組みや福祉課題などをテーマにして、地域福祉の啓発に努める。

資料1

1-④ 人材の育成とコーディネイト機能の充実 (つづき)

事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
ボランティア 講座	社協	・個別の課題や地域課題に寄り添った 講座を開催することで、誰もが安心して暮らし支え合う地域づくりへと繋げる。 ・親子の繋がりを深め、ボランティアへの 興味を持ってもらうために開催する。 ・ボランティアに関心を持ってもらうため のきっかけとなる講座を開催する。	・ボランティア講座 親子「サイエンス☆ラボ」 46名(22組) ・ボランティア講座 「障がい児・者のお金に関すること」 障がい児・者の将来のための今からできる準備講座 26名 個別相談で親亡き後の心配が寄せられていることから、 事前にできる準備講座をボランティア・市民活動センターと コミュニティソーシャルワーカーで連携し開催 ・ボランティア講座 「ボランティアきっかけ作り講座」 35名 ボランティアに興味がある方へ活動の紹介をすることでボランティア活動のきっかけを作る。また、高齢化等による会員不足でニーズに対応できないボランティア団体の会員増加の支援と会の継続を促進 ・ボランティア講座 「受け入れ施設担当者研修会」 15名 コロナ禍で受け入れの途絶えた現状から受け入れの基本について学び、新しい取り組みなど情報共有し施設側、利用者、ボランティアに良い環境作りを考えるために開催	・障がいを持った方が親亡き後も尊厳を持って暮らしていける様、事前にできる準備講座、お金に関する講座を開催。 障がいのある方の家族で将来のことを考えるきっかけとなった。 ・親子の繋がりを深めるサイエンス☆ラボは人気の講座でありボランティアについても学んでもらえる機会となった。 ・ボランティアきっかけ作り講座はボランティア活動をしたい方へのはじめの一歩として良い機会となった。 ・施設ボランティア受け入れ担当者研修は、施設が悩みなどを直接顔の見える状態で話し合い共有できたたことで今後のボランティア受け入れについて考える良い機会となった。 ・令和7年度も引き続き、障がいの理解、親子、課題解決、ボランティアきっかけの講座開催を予定している。
・ ボランティア 交流会	社協	交流会を開催し、ボランティア同士の情報共有の場を設ける。また各活動の理解を深め、ネットワークの強化を図る。	日 時 3月3日(月)11時~15時 会 場 新津地域交流センター3階 参加対象 登録ボランティア(個人・団体)、地域の茶の間サロン関係者 にいがたし元気カアップサポーター、施設、企業、 ボランティアに興味のある方 内 容 1.ボランティア体験・活動紹介 おもちゃ病院、点字、手話、要約筆記、かみしばい、フラダンス あきは日本語教室、子ども食堂かけはし、ディンプルアイランド、 SDGsゲーム新潟県版体験 2.ボランティアについて学ぶ(活動紹介、事例発表) ボランティアについて、活動紹介、事例発表) ・ボランティアについて、活動紹介、事例紹介(SDGsボードゲーム、マジックボランティア) 3.ボランティア交流・情報共有 4.その他 福祉施設販売(ぶどう工房、コトイロ、まくあけびー)	・ボランティア体験、学ぶ、交流の3つの内容で実施。 ・施設・企業・ボランティアの繋がりの時間となるよう開催 ・ボランティア活動の理解や情報交換の場として必要な機会なので、今後も開催方法を工夫し、継続して実施する。

資料1

1-④ 人材の育成とコーディネイト機能の充実 (つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
6	地域出前講座	社協	学校、地域、各種団体に対し、福祉に 関する理解と、啓発を目的に講座を開 催する。	・認知症サポーター養成講座 新海縣信用組合、地域寺 4件 ・支え合いのしくみづくり推進員による地域(サロン等)での出前講座 秋葉区全域 2ヵ所 (支え合いのしくみづくりについて、福祉活動について) 新津第一・第三圏域15ヶ所 (地域の見守りについて、支え合いの必要性、居場所の意義、 緊急情報キットについて、歳末見守りについて、) 新津第五圏域 5+m	・福祉教育を行う学校が増えた中、支援級との取り組みは新たな視点でのプログラム作りとなった。 ・体験学習から地域の取り組みを知り、支え合い・助け合いの気持ちが持てるよう関係機関や障がい当事者から協力をいただきながら進めてきた。 ・交流方法としては地域の茶の間・サロンとの交流や地域のボランティアとの交流を行うことで地域福祉について身近に知ることができた・今後も学校、企業、地域等に福祉についての啓発ができるよう、様々な団体や人材とつながり、新たなプログラム作りや場作りをし、取り組みを継続する。また、学校が地域や施設との繋がりが深まるよう社協内でも連携し協力しながら行っていきたい。
7	元気力アップ サポーター事業	社	65歳以上の高齢者が福祉施設(高齢・障がい・保育園・図書館・公民館など)でのサポート活動をすることで自身の介護予防とともに、生きがいを見出し、元気になることでいきいきとした地域づくりを目指す。	* 西族説明芸開催 5回 参加名 49名 秋葉区サポーター数 285名 ・ ・	コロナ禍が明け施設もサポーターの受け入れを行うようになってきた。施設に行けなかったサポーターが積極的に施設への訪問活動を行うようになった。また、今までサポーターとして登録していなかった団体等へサポーター登録を促すことができた。これにより活動範囲の拡大や活動意欲の増加に繋がった。 R7年度も、登録をしていない団体等へ出張説明会を積極的に行い、サポーター登録を促進を行う。

資料1

2 安全で安心な地域づくり

2-① 安心して暮らせる支えあいの環境づくり

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	高齢者等 あんしん見守り ネットワーク 事業	当介護	高齢者等、地域の中で支援が必要と思われる方が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域住民や協力事業者による見守り活動の中で異変等を発見したときに、すみやかに対応できる体制を強化する。	・見守り意識の啓発 ・協力事業所としての登録の働きかけ	・見守り体制の構築・維持には地域が主体となって行っていく必要があることから、支え合いのしくみづくりを進めていくなかで、コミ協など地域へ働きかけを行っていく。
2	子育て 支援施設	福児 祉童 係	地域の子育て支援の情報収集・提供 に努め、関係機関と連携しながら子育て 支援に関する支援・相談を行う。(秋葉 区 子育て支援施設 4か所)	・各子育て支援センターでは、遊びの提供だけでなく、各種セミナーの開催、一時預かりの実施、子育てに関する相談への対応などさまざまな角度からの子育て支援を行っている。	・秋葉区内の子育て支援施設は4か所。 今後もより多くの子育て世代から利用していただけるよう各子育て支援施設と連携し市民のニーズに合わせた 活動を継続していく。
3	民生・児童委員 への支援	協祉	地域住民の相談や見守り活動などを 実施している民生委員・児童委員を支援 することにより、一層安心して暮らせる 地域づくりを目指す。	・秋葉区民生委員児童委員連絡協議会活動への協力 ・区だよりを活用した民生委員児童委員活動の広報 ・一斉改選に向けた自治会町内会への協力依頼 ・会長会・地区定例会出席 ・個々のケース支援	日頃の民生委員児童委員の活動への支援と併せ、12 月の一斉改選についても地元自治会等への働きかけなどを通して支援を行う。
4	妊娠・子育て ほっとステーショ ン事業 令和6年 主要事業	健康増進係	妊娠期から子育て期(18歳未満)までの切れ目のない支援を行い、子育てについてひとりで悩まないようにサポートし、子育てしやすい環境を作る。	子ども虐待予防ネットワーク事業 ・実務者会議の開催(9回) ・個別ケース検討会議の開催(20回) ・妊娠・子育てほっとステーション体制整備の会議、研修を実施(2回) 相談・受付件数 ・窓口 2,824件 ・電話 841件 ・メール 3件 相談内容 ・出産準備、産後の過ごし方、子どもの体重増加や発達、入園方法など	・業務連携を見直したり、母子へのあるべき支援を考えることが出来た。引き続き切れ目ない支援のために、関係機関と顔の見える関係を築き、連携して対応する。
5	児童期・思春期 の子どもと保護 者の支援 令和6年 主要事業	仙	不登校などの子どもの課題に関する講演会や相談会を開催し、関係機関とも連携しながら、課題の解決を支援します。	・不登校などの子どもの課題に関する講演会・ワークショップ 開催回数:2回 参加者数:38名 ・不登校などの子どもの悩みを抱える保護者の相談会 開催回数:2回 参加者数:21名 ・子ども向け進路相談会 開催回数:1回 参加者数:5名	・講演会及びワークショップは、参加者アンケートの満足度も高く(90%以上)、内容についても好評であるため、次年度も開催し、参加者の抱える課題に応えられるよう努める。 ・相談会については、各関係機関と連携しながら相談者の課題解決となるよう、次年度も引き続き実施する。
6	時がい者用 住宅の整備		障がい者の住みよい環境づくりに資するため、障がい者用市営住宅の確保や 住宅リフォーム資金を助成する。	・住宅リフォーム資金助成 2件 ・障がい者用市営住宅 新規申請 0件	・引き続き制度の周知に努め、障がい者の住みよい環境づくりに努める。

資料1

2-① 安心して暮らせる支えあいの環境づくり (つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
7	友愛訪問事業	協	75歳以上の高齢者世帯及び障がい者 世帯等を対象に、民生委員児童委員や 訪問員が定期的に訪問し、見守り・声か けをすることで安否の確認を行い、孤独 感の解消とニーズ把握に努める。	・訪問世帯数 873世帯 ・延べ訪問回数 7,254回 ・訪問員数 142名	・見守り活動のツールとして各地区で実施。訪問世帯数、延べ訪問回数ともに減少している。 ・民生委員児童委員と連携し、見守りを通していざという時に迅速に必要な支援につながるよう継続して実施する。
8	緊急キット配布事業	協	75歳以上の高齢者世帯及び障がい者 世帯を対象に、緊急時に備えて連絡先 等を記載した情報キットを配布し、緊急 時に備えると共に、地域での見守りの仕 組みづくりを行う。	・緊急情報キットー式配布数 新津中央コミユニティ協議会 新津西部コミユニティ協議会 新津東部コミユニティ協議会 阿賀浦コミユニティ協議会 両島田内会 美幸町町内会 西島自治会 ・情報用紙更新 ・情報用紙更新 新津中央コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻川コミユニティ協議会 荻田コミユニティ協議会 万田町内会 荻田田ミユニティ協議会 荻田田ミユニティ協議会 荻田田ミユニティ協議会 荻田田ミユニティ協議会 万田町内会 本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本) 1本(内無料配布数 1本)	・緊急情報キットの配布を通して住民主体の訪問活動などが展開されている。新津第一・第二圏域支え合いのしくみづくり会議や阿賀浦地区においては、緊急情報キットの活用方法や緊急情報キットを活用した見守り活動について意見交換を行い、有効的な活用について検討した。 ・次年度以降も実施地区への支援を継続し、未実施の地区については活用事例を通じて必要性を伝えていく。

資料1

2-① 安心して暮らせる支えあいの環境づくり(つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
9	高齢者虐待に 関する事業	介 護高 担 当	地域包括支援センター、ケアマネ ジャー、民生委員などと連携を図り、虐 待防止に努める。	・個々の虐待ケースに包括やケアマネなど関係者と連携して対応 ・過年度からの継続ケースも含め定期的にモニタリングなど実施 個別事例対応受付件数 35件	・虐待ケースは原因、状況がさまざまで、対応も個々に 異なる。また、数年に渡り継続対応が求められるケース も増えつつある。引き続き、包括など関係者との更なる 情報共有、連携を深め、緊急性を的確にとらえ迅速に 対応していく。
100	地域包括ケア システムの構築	一・高齢介護担心	地域における支え合いのしくみづくり、 支え合い活動の推進を図るため、支え 合いのしくみづくり会議(協議体)を設置 し、コーディネート役である支え合いのし くみづくり推進員(生活支援コーディネー ター)を配置する。 地域住民同士の支え合いのしくみづく りを進めるために、地域包括ケア推進の 拠点としてモデルハウスを設置し、地域 の茶の間の運営や、生活支援、介護予 防活動などを実施するとともに、その活 動ノウハウの普及を図る。	※3 第1層および第2層支え合いのしくみづくり会議の運営事務局を、秋葉区	・生活支援および介護予防サービスの体制整備に向け、地域ニーズの把握やネットワーク構築、定期的な情報共有など行い、地域の支え合い活動の一層の推進を図っていく。
111	地域包括ケア推進事業		支え合いのしくみづくり会議(協議体)運営の事務局として、支え合いのしくみづくり推進員を中心に、協議体構成員や各種団体との連携を図るとともに、小地域での見守りや生活支援の取組みなどの地域活動を支援する。	【第1層事務局】 ・令和6年度第1回秋葉区支え合いのしくみづくり会議 日時:令和5年6月26日(水) 10:00~11:30 内容:2層支え合いのしくみづくり会議報告 認知症について、社会福祉法人等の公益活動について ・令和6年度第2回秋葉区支え合いのしくみづくり会議 日時:令和6年3月12日(水)10:00~11:30 内容:1層、各圏域の活動報告 ・令和6年度のふり返り・令和7年度の取り組みについて ・令和6年度区社協福祉推進会議 日時:令和6年8月1日(木)10:00~12:00 令和6年8月2日(金)14:00~16:00、 18:30~20:30 テーマ:見守りの重要性 ・令和6年度秋葉区社会福祉法人等ネットワーク研修会 日時:令和7年1月24日(金)14:00~15:30 テーマ:社会福祉法人による地域貢献活動における地域とのつながり ・各地区地域福祉懇談会(別紙のとおり)	【第1層】 ・地域福祉懇談会を11地区で2回ずつ開催し、取り組みの確認や評価、次年度へ向けての取り組みが確認できた。 ・社会福祉法人による地域課題に対する地域貢献活動の取り組みのきっかけや、地域とのつながりの重要性を周知する場として、研修会を開催した。支え合う地域づくりを進めるうえでも地域とのつながりは重要なテーマであるため、支え合いのしくみづくり研修会としても合同で開催し、各地区で取り組みを進める一助とすることができた。 ・モデルハウスだんだん・嶋岡で夏休みに子どもの居場所づくりに取り組んだ。学校とだんだん・嶋岡が連携し、地域への周知を広めていた。来年度も継続した実施を必要に応じ支援していく。 ・モデルハウスだんだん嶋岡の課題等に対する取り組みを進めるとともに、その活動内容を研修会等で発信する。 ・社会福祉法人、学校や企業等連携し、認知症サポーター養成講座等の取り組みを継続して進めていく。・地域課題にあった研修会を開催するなど第2層(地域)が取組みやすい支援を行っていく。

資料1

2-① 安心して暮らせる支えあいの環境づくり(つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	地域包括ケア 1 推進事業 (つづき)		支え合いのしくみづくり会議(協議体)運営の事務局として、支え合いのしくみづくり推進員を中心に、協議体構成員や各種団体との連携を図るとともに、小地域での見守りや生活支援の取組みなどの地域活動を支援する。	【第2層 新津第一・第二圏域事務局】 ・令和6年度第1回新津第一・第二圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年6月6日(木)10:00~11:30 内容: 令和5年度のふり返り、令和6年度の取り組みについて ・令和6年度第2回新津第一・第二圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和7年2月6日(木)13:30~15:00 内容: 令和6年度のふり返り、令和7年度の取り組みについて 【第2層 新津第五圏域事務局】 ・令和6年度第1回新津五圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度第3日(月)10:00~11:30 内容: 令和5年度のふり返り、令和6年度の取り組みについて ・令和6年度第2回新津五圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度第2回新津五圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度第2回新津五圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度のあり返り、令和7年度の取り組みについて ・令和6年度第1回か合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度第1回か合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年度第1回か合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年月1日(水)10:00~11:30 内容: 常知5年度のふり返り、令和6年度の取り組みについて ・令和6年度第2回小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年9月11日(水)10:00~11:30 内容: 圏域全体での取り組みにおけるサロン交流について 支え合いの周知について ・小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和6年10月21日(月)13:30~15:30 内容: 各サロンの現状・運営の工夫の発表、情報交換 ・令和6年度第3回小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議 日時: 令和7年2月21日(金)10:00~11:30 内容: 令和6年度のふり返り、令和7年度の取り組みについて	【第2層】 ・地区の課題は福祉懇談会を基に地区ごとに取り組みを進めていき、支え合いのしくみづくり会議では圏域共通の課題について検討してそれを地域福祉活動に活かすことができた。 〈地区ごとの課題に応じた取り組み〉 支え合いのしくみづくりの周知 サロンの立ち上げ、運営支援(情報交換会の開催) 見守り活動の取り組みの検討 社会福祉法人と連携した移動支援の検討、実施除雪の取り組みの検討 生活支援(ゴミ出し等)の取り組みの検討 〈支え合いのしくみづくりの各圏域のテーマ〉 緊急情報キットの活用方法について 見守りにおける認知症の対応について 見守りにおける認知症の対応について コミ出しの課題について 支え合いのしくみづくりの周知について 圏域全体での取り組みにおけるサロン交流について ・次年度も継続して検討を進めるとともに、新たな課題に対する取り組みも検討していく。今後も地域福祉計画・地域福祉活動計画と一体となった取り組みを進めていく。

資料1

2-① 安心して暮らせる支えあいの環境づくり(つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	2 ゴミ出し支援事業	社協	既存の制度では対応が難しい複雑・多様化した生活福祉課題に対応するため、ゴミ出し支援を行う。	・実施団体:5自治会・町内会(古津、新町、秋葉2丁目、金津、小口) ・新津清掃社及び地域包括支援センターと、地域の報告会の状況を共有、意見 交換会を実施した。(R6.6.11開催) ・2月に、秋葉区全体でのふり返り会を予定。	・ゴミだし支援だけではなく、災害時、日頃の見守りを全体的に見ている自治会もある。 ・新津清掃社との打合せ会は、3包括支援センターも含めて開催した。今後も会議の在り方について、また、地域貢献活動として取り組みが継続できるよう検討していく。
1	3 子育て支援事業	社	子どもの社会的孤立の防止を図ることを目的とし、地域社会の中で子どもたちが気軽に参加できる居場所づくりを目指し、子どもの居場所の運営を行えるよう支援する。	·新規居場所開催団体 0団体 ·助成申請団体 5団体	・児童福祉法に基づき18歳未満の子どもを対象とした、子どもの居場所づくり活動団体へ助成を実施し、運営支援を行った。 ・次年度は、既存の団体への継続支援、新規立ち上げ団体への立ち上げ支援を行う。 ・令和6年度に実施予定の子どもの居場所運営団体を対象にしたアンケート結果をもとに、次年度情報交換や講座を実施し、運営支援を行う。
1	4 歳末たすけあい 助成事業		地域住民が主体となって行う歳末時期 の交流活動や除雪支援活動に対して助 成し、住民相互の助け合いの輪を広げ、 日常の見守り活動を強化する。	・自治会・町内会が行う交流事業に対し、助成を行った。 →申請件数 21件 ・自治会・町内会が行う除雪事業に対し、助成を行った。 →申請件数11件	・コロナ禍を経て地域活動が進められるようになり、自治会・町内会で多世代交流事業として活用してもらい、申請件数が昨年度と比較して増加である。 ・継続して各地域における交流事業と、要援護者宅や 児童通学路の除雪を通して、たすけあいや見守り活動を推進していく。
1	5 入学準備 支援事業		ひとり親世帯および低所得者(生活困窮含む)世帯の子どもたちに健全な育ちの機会と充分な教育を保証する一助として小学校及び中学校に入学準備としてランドセル又は体操着の購入助成を行う。	・対象者:ひとり親世帯で市民税非課税世帯 ・助成件数 3件	・秋葉区役所児童福祉係から協力をいただき、対象世帯への事業案内を行った。 ・次年度も取り組みを継続する。

2-② 安全で快適な生活環境づくり

事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
災害 ボランティア センテー運営 コーディネー ター 研修事業	社 協	災害時における秋葉区災害ボランティア センターの円滑な設置・運営、関係機関 や地域等との連携確認のための研修会 を開催する。	日 時: 令和6年6月14日(金))15:30~17:30 会場: 西区役所 参加者: にいがた災害ボランティアネットワーク・日本防災士会・赤十字安全 奉仕団・白根青年会議所・新潟県社会福祉協議会他(18名) ・秋葉区ボランティア連絡協議会会員の集い 日時: 令和6年10月24日(木))10:00~11:30 会場: 新津健康センター	これまで、被災された方や地域を支援するため、関係機関や地域と連携し災害ボランティアセンター設置訓練をベースに取り組んできた。今後、発災から災害対策本部の設置、BCPを含めた災害時対応を重点的に確認する必要がある。 災害時は迅速に的確な対応、関係機関等との連携が重要であることから、BCPを含めた災害時対応を役職員が共通認識を持ち、動ける体制を整える。また、平時からの取組みとして、地域と社協との災害時連携のための研修の実施、発災から災害対策本部の設置までのマニュアルの整備、BCPを含めた災害時対応の検証を行う。

資料1

3 健康で豊かな地域づくり

3-(1) 地域における健康づくりの推進

3 <u> </u>	リ 地域におけ	のほり	すってりの推進		
	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	乳幼児 健康診査・ 育児相談事業	増進	乳幼児の健やかな発達・発育の支援と、疾病予防や早期発見を目的とする。 健診や育児相談の機会をとらえて、子育てに必要な情報提供や保育者支援を 実施。	〈乳幼児健康診査〉・股関節検診 : 8回 受診者296人(受診率93.0%)・母体保護相談: 8回 受診者296人・1歳6か月児健診 : 9回・受診者356人(受診率97.6%)・3歳児健診 : 12回・受診者409人(受診率98.4%)・未受診者は全て情報の確認が行われた。〈定例日育児相談〉・定例日育児相談 : 9回・相談者 延べ309人(45人増加)	・各種健診の場面では、保護者の思いを受け止めたり、 子育てに必要な情報を提供するなど支援を行うことが 出来た。乳幼児健診未受診者へは地区担当保健師が 全数の状況を確認し、育児相談を行う等支援ができた。 ・定例日育児相談の相談者数は延べ45人増加。体格や 食事の悩みが多く適切な支援を行った。引き続き開催し ていく。
2	成人集団 検診事業	健康増進係	各種がん検診を実施し、病気の早期 発見、健康増進に努める。	・肺がん検診: 23回+新津成人病検診センター等 受診者3.576人 ・胃がん検診: 11回 受診者453人 ・乳がん検診: 21回 受診者867人 * 肺がん検診は、定期の集団検診の他に未受診者対象のミニドック型健診を2 日間(半日4回)、新津成人病検診センターで定例実施 * 乳がん検診は、協会けんぽとのコラボ検診を1月に2日間(半日4回)実施	<肺がん検診>・受診者数は年々増加。引き続き受診勧奨を実施している。 (胃がん・乳がん検診>・胃がん、乳がん検診共に集団検診受診者数は横ばい。若い世代での受診率が伸びないため、引継ぎ普及啓発を実施していく。
3	歯科保健事業	原増 進	各種歯科健診を実施し、治療が必要な 歯を早期発見し、適切な治療につなげる。 歯科指導の際に食生活やむし歯の予防について助言し、幼児の健全な育成 を図る。		栄養相談、育児相談を併設することで、保護者の困り感 や不安の軽減につながった。引き続き疾病の早期発見 と、歯科衛生士・栄養士・保健師による子育て支援を 行っていく。
4	特定保健 指導事業	増 進	特定健診の結果、メタボリックシンドローム該当者及び予備群と判定された方を対象に、メタボリックシンドロームを改善するため、生活習慣改善の支援を行う。	 ・特定保健指導の対象者に対し、特定保健指導の案内及び再案内を個別通知。 電話・訪問による利用勧奨を実施。 ・対象者224名(積極的47名、動機付け177名) ・保健指導実施者51名(積極的6名、動機付け45名) ・初回実施率22.8% 	・対象者が年々減少傾向。再勧奨、電話勧奨の他、訪問勧奨を実施し初回実施率が増加。次年度も実施率の下がる7月から12月に訪問勧奨を行うことで実施率増加を図る。
5	健康教育事業	健康增進係 地域保健福祉担当	心身の健康に関する知識を普及啓発 することにより行動変容を促し、主体的 に健康保持・増進できるよう支援する。	・依頼健康教育 : 成人 16回 延べ231人、 母子 4回 延べ28人	・成人は企業等からの依頼が減ったため回数が減。母子は、保健師への依頼は減ったが他係の専門職や外部講師が呼ばれ講話をしている現状が分かった。次年度も健康教育などの教室をコミ協、サロン、老人クラブ、子育て支援センター等に広く周知し、どの年代にも健康づくりに向けた知識の普及を継続実施する。

資料1

3-① 地域における健康づくりの推進(つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
6	食育関連事業	健康増進係	幅広い世代に亘って、食に関する知識 や食を選択する力を身につけ、健全な 食生活を実践することができるよう支援 する。	・離乳食講習会:15回 110組131人 (講話内に減塩を加えた) ・健康増進普及講習会(テーマは糖尿病予防、フレイル予防の食事と減塩): 4会場8回 延べ181人参加	・計画したテーマで講話ができた。生活改善に取り組みたいなどの声が聞かれた。 ・今後も全世代の共通課題である減塩を啓発していく。 ・健診結果で血糖値有所見者率が高いことから、次年度も糖尿病予防をテーマに実施する。
7	思春期 保健事業	健康増進係	思春期の心身の変化を学び、健全な 発達・発育ができる機会を提供する。	・中学校における思春期保健講演会の実施 「生と性の講演会」 区内高校・中学校5校6クラスで実施 受講生徒数:824人	・希望した学校で予定通り実施できた。 ・中高生が性についての正しい知識を持ち、自ら考えて 行動していくための普及啓発が必要なことから次年度も 秋葉区内の全中学校、高校に希望調査を実施し思春 期教育の機会を提供する。
8	幸齢ますます 元気教室 (運動機能向 上・栄養改画上 複合プログラ ム)	進	生活機能の低下がある、低栄養状態にある又はその恐れがあるなど要介護状態に陥りやすい高齢者や要支援認定者を対象に、集団で運動、栄養、口腔機能向上指導などを行い、生活機能の維持改善を図り要介護状態になることを予防する。	・幸齢ますます元気教室 3会場で実施 参加者:実人数68人 延べ816人	・高齢者が集まる事業等で教室の周知を行い、対象者を教室につなげた。 ・修了後により多くの方が介護予防できる活動場所につながるよう支援した。 ・引き続き介護予防の必要な方が教室や活動場所につながるよう取り組む。
g	食生活改善推 進 委員育成支援 運動普及 推進委員 育成支援	健康増進係	食生活改善推進委員及び運動普及推 進委員の活動支援を行う。	・食生活改善推進委員育成支援 令和6年度1人入会 勉強会 延4回実施 食生活改善推進委員(会員43人) 延75人参加 勉強会のテーマを元に地区担当保健師・栄養士とともに、地区の健康 増進普及講習会を実施 8回開催 181人参加 ・運動普及推進委員育成支援 連絡会に出席し、活動支援を実施 9回 延べ209人参加	・予定していた勉強会など実施できた。引き続き、食生活改善推進委員育成支援として、会員の資質向上が図れるよう、年4回の勉強会を実施していく。 ・運動普及推進委員の活動場所を拡げることができた。 引き続き、活動が発展するよう支援を行う。
1	地域ぐるみで フレイル予防 事業 令和6年度 主要事業	保 健	新型コロナウイルス感染対策による身体活動の低下から、高齢者だけでなく、子どものロコモ予防も含めたフレイル(適切な対応をすれば健康な状態に戻れる虚弱な状態)予防の実践方法の普及啓発を行い、区民が支え合いながら健康づくり活動が継続できるよう支援する。	・フレイル予防教室 : 3会場/2回コース 延べ146人 ・保健師等による健康教育 : 38回 延べ959人 ・サポーターフォロー研修 : 1回 18人参加 ・ラジオ体操カード100日達成者数 : 延べ188人	・フレイル予防教室は予定通り実施。各包括圏域1か所ずつの実施であるため、交通手段がなかったり会場に近い方に参加者が限られてしまう状況があったことから、教室は終了。次年度は、より身近な地域の茶の間等で講座を実施していく必要がある。・地域のお茶の間等で積極的にフレイル予防の働きかけを実施。またイベント等では幅広い世代に普及啓発することができ、ラジオ体操カード100日達成者数が増加したと考えられる。・身近な地域のお茶の間等で住民が主体となり健康づくりが行えるように支援を行う。

資料1

3-① 地域における健康づくりの推進(つづき)

		事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	1	こんにちは 赤ちゃん 訪問事業	健康増進係	新生児・産婦に対し健康指導を行い、 健康の保持増進及び育児支援を行う。	・訪問登録助産師による訪問を実施した人数 実人数482人 延べ644人・未訪問 5件	・未訪問者は全て転入前に訪問が完了し、現在は相談 支援等が不要であることを窓口で確認ができた。 ・全数対面で生活状況を確認し育児支援を行った。引き 続き全数対面で支援ができるよう取り組んでいく。
1	2	健康相談事業	増福	健康問題について個別に相談を行い、 日常生活や食事の指導を通して生活習 慣病を予防するとともに自らの健康管理 ができるよう支援を行う。	・定例日健康相談 :9回 実人数21人 延べ21人 ・骨粗しょう症予防相談会:8回 267人	・定例日健康相談の予約状況は毎月ばらつきがあるものの、一定数のニーズがある。次年度も同様に実施していく。 ・骨粗しょう症予防相談会はがん検診、育児相談等の事業と併せて実施することで、幅広い層の受診につながった。次年度も、他事業と併設し、会場を分散させ受診しやすい環境整備を整えていく。
1	3	健康寿命延伸 に 向けた 区役所事業	康 増 進	健康寿命延伸にむけ、地域の健康課題に基づき、区内のさまざまな機関と協働し、子どもを含めた幅広い世代を対象に、生活習慣病への関心を高め、健康自立ができるまちづくりを行う。	・健康ミニ教室: 6回実施 延べ157人 ・糖尿病予防相談会: 2回(2回1コース1回、単発1回) 延べ86人 ・親子向けの生活習慣病予防への取組み: 小学6年生を対象にジュニアドック(受診90人/予約100人)、からだづくり講座 (親子20組54人)を実施した。 ・健康部会: 健康レストラン登録店は薬科大学学生によるSNSを活用した周知 を行った。登録数は、14店舗増え合計60店舗となっている。	・健康ミニ教室は次年度も継続する。 ・糖尿病予防相談会は糖尿病への関心の高さや世代を問わず、健康課題や生活習慣病予防について周知・啓発するため地域のイベントに出向く等、実施方法を変更していく。 ・親子向けの取り組みは、予定した事業が実施でき、親子で生活習慣を振り返る機会となった。ジュニアドックは一定の成果を得られたと判断し今年度で終了とし、得られた結果から、どの年代も健康的な生活習慣について取り組めるよう広く普及啓発していく。からだづくり講座は家族ぐるみで生活習慣について意識が改善する効果があったことから継続する。 ・健康部会は、引き続き健康レストラン登録店への学生による支援や登録支援事業を実施していく。秋葉区文化会館と連携しひと・まち・みらいフォーラムを開催していく。

資料1

3-② すべての人が互いに尊重しあえる地域を実現するための啓発と普及

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	認知症 サポーター 養成講座	介 護担 当	認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る認知症サポーターを養成する。	・認知症サポーター養成講座の開催 開催数:27回 地域住民18回、小・中学校5回、大学1回、職域(企業など)8回 参加者(サポーター)数:734名	・引き続き講座を開催し、認知症サポーターを養成していく。また、区職員を対象とした講座を開催し、職員の意識啓発を図っていく。 ・認知症サポーターを対象に、ステップアップ講座を開催する。
2	障がい者との 交流の促進	福障 祉が 係い	障がい福祉施設や地域の団体(コミュニティ協議会、自治会等)との交流を積極的に働きかけ、障がい者への社会参加・理解を広める。	 ・どんちゃんまつり 開催日:9月14日(土) ・癒しの福祉ゾーンまつり 新津B&G海洋センター工事のため中止 	・癒しの福祉ゾーンまつりは新津B&G海洋センター工事のために中止となったが、どんちゃんまつりは開催され、多くの地域住民も参加して交流が図られた。
3	あきは サポートネット 令和6年度 主要事業	高齢介護担当	認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進するため、区民や団体、教育機関等とネットワークづくりを行い、区民協働による「認知症高齢者等と支える家族にやさしい秋葉区」を目指す。	・秋葉区認知症講演会 テーマ「認知症やその家族を支える地域づくりを考える」 令和7年3月14日開催予定 ・認知症カフェ 年4回開催(6月、9月、11月、3月)、11月までの参加者は54人。	・認知症講演会や認知症サポーターステップアップ講座を開催するとともに、地域における認知症高齢者等の見守りについて意識啓発を図る。 ・秋葉区キャラバンメイト連絡会による認知症カフェの開催支援を行う。
4	障がい者 チャレンジ支援 事業	福障 祉が 係い	福祉施設に通所する障がい者に事務 作業訓練の場を提供し、就労に向けた 能力向上と生きがいのある生活を支援 する。	・実習受入れ先:13ヶ所(区役所含む) (秋葉区役所、割烹一楽、森林農園、うららこすど 他) ・実習状況:実施日数43日 参加延べ人数125人	・区役所や民間事業所で実習を行い、就労に対する意 識の変化や自信に繋がった。 ・各事業所へ障がい者への理解を進める。

資料1

3-② すべての人が互いに尊重しあえる地域を実現するための啓発と普及 (つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
Ę	「つながる」 「広げる」 障がい者 支援事業 令和6年業	障がい福祉係	障がい児に関わる医療・保健・福祉・教育・労働などの各機関が保護者とともに必要な情報を共有するシステムづくりを行う。また、発達に支援の必要な児童の保護者に対する講座を行うことで、悩みや心配ごとを共有できる仲間づくりを推進し、不安感や孤立感の解消を図る。市民を対象に、障がい者への理解を深め地域で支える仕組みづくりを考える講座を開催し、支援者等の輪を広げる。	・つながる支援ファイル 利用者(配付)数 24人(延べ316人) ・ノーバディズ・パーフェクトプログラム講座(保護者支援講座) 開催日:10月2日~11月6日(全6回) 参加延べ人数:14人 ・障がい者理解講座「発達に障がいのある子を持つ親世代の老後を考える」 開催日:3月1日(土)実施予定 講師:株式会社あしたの森 林 正海氏	・新規サービス利用の相談時等に「つながる支援ファイル」を配付した。次年度もファイルの配付を継続し、関係機関が必要な情報を共有して支援を行えるよう活用を図る。 ・療育教室等に通う2~3歳児の保護者を対象に支援講座を開催し、悩みを共有したり、子どもの成長を感じることで、子育てに前向きになれる機会を創出した。 ・発達に障がいのある子を持つ親世代の老後について、専門家から講演やアドバイスを受けることで、備えを考える機会とした。

資料1

4 相談しやすい体制づくり

4-① 地域福祉のネットワークの構築

	ラッピッグ T田Tエ V			△和6年中央长河(△和6年10日十 田大)	証法 温度(人和6年度) 1.加生度起南(人和7年度)
	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
1	ふれあい福祉 サービス事業	社協	秋葉区在住のひとり暮らし高齢者等 (利用会員)の依頼により、ボランティア として登録する協力会員が自宅に訪問 し、見守りや話し相手を兼ねた軽微な生 活支援を行う。	- 協力会員 43名 - 利用会員 70名 - サービス提供回数 1,439回 - 活動時間 1,012時間 - 福祉サービスの提供、コーディネート、関係機関等との連絡調整 - ふれあい福祉サービス交流会及び研修会の開催 日時: 令和6年11月27日(水)10:00~11:30 参加者:12名	・福祉サービスを提供することによって在宅で過ごすための一助となっており、ゴミ出しなどの利用が中心であった。 ・昨年度に引き続き、協力会員を対象に交流会及び研修会を開催し、心がまえの確認や情報共有を行った。 ・相談に対し、自治会町内会と連携を行い、地域の方を協力会員登録へつなぐことができた。 ・今後も利用者ニーズに対応できるようサービス内容の検討、協力会員の確保と住民参加型在宅福祉サービスに対する理解を深めていく。
2	成年後見人 制度の周知	介 護高 担齢 当	認知症や障がいなど判断に支援を要する方々に、それぞれのレベルに合わせて後見人、保佐人、補助人を家庭裁判所が選任し、必要な支援を行う制度について、周知啓発を図る。	・パンフレット等による周知啓発 ・成年後見制度利用支援助成金 32件交付 ・成年後見審判 市長申立 4件	・制度利用を必要とする人への周知を図るため、地域 包括支援センターと協力し、地域の啓発活動を進める。 ・成年後見センターとも連携していく。
3	日常生活自立支援事業	社協	判断能力に不安のある高齢者や知的 障がい者、精神障がい者の福祉サービ スの利用援助や金銭管理等を支援す る。	 ・利用者数 秋葉区 14人 ・生活支援員 秋葉区 7人 ・支援回数 秋葉区 343回 ・相談件数 秋葉区 76回 	・福祉関係者等に対して、本事業の周知を継続する。 ・本人の自立を大切にしながら、生活支援員、専門員、 関係者等との連携を密に行い、自己実現に向けた支援 を行う。
4	自立支援 協議会	福	障がいのある人もない人も安心して暮らせる共生社会を実現することを目的として、関係機関が連携・一体となって障がいのある方を支援するために協議を行う。	・市役所障がい福祉課開催 全体会議 1回 運営事務局会議 3回 ・秋葉区障がい者地域自立支援協議会 3回 ・課題別ワーキング検討会 2課題 各3~4回 ・相談連絡会 計7回(うち3回は高齢福祉・障がい福祉連携チーム会議) ・障がい児「つながる」支援セミナー 開催日:8月1日 参加者:57人(区内小・中学校、特別支援学校、児童発達支援センター、 放課後等デイサービス、相談支援事業所 など)	・区協議会で地域課題等について情報共有し、検討を 重ねる中で、関係機関とのネットワークを構築すること ができた。 ・各区で課題を出し合い、課題整理や社会資源の開発・ 改善、施策提案などの役割を担っている。
5	保健福祉相談· 訪問指導事業	祉域 担保	精神障がい、知的障がい、身体障がい、児童虐待、高齢者虐待、結核、難病、生活習慣病など、妊婦・乳幼児から高齢者までの保健・福祉に関する相談に対して、関係機関と連携し、迅速に対応を行う。	・妊婦・乳幼児から高齢者までの保健・福祉の相談に対して、保健師が関係機関と連携し迅速に対応。 相談件数 延べ 910人 訪問件数 延べ 526人	・緊急対応が必要な相談や処遇困難な相談も多く、より 迅速な対応が課題。 ・日頃から他機関と密な連携を図ることができ、関係機 関と役割分担をしながら対応できた。 ・次年度も関係機関と連携し、迅速に相談対応してい く。

資料1

4-① 地域福祉のネットワークの構築 (つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
6	ドメスティック・ バイオレンス (DV) 相談窓口	保護係	ドメスティック・バイオレンス(DV)につ いて相談しやすい環境づくりに努める。	・女性相談 〈女性相談員1名配置〉 相談件数(実件数) 41件 相談件数(延件数) 123件 内訳: DV85件、親族からの暴力25件、離婚問題5件 など	・主訴はDVや離婚に関する事であるが、貧困、虐待、 医療など複合的に、問題を抱えた相談者が多い。 ・FMにいつ等を活用し、相談窓口や制度の周知を行った。 ・次年度も配偶者暴力支援センター等と連携し、支援を 行っていく。
7	生活困窮者 相談支援	夜	経済的に困窮している方について、相 談しやすい環境づくりに努め、就労に向 けた支援や住居確保のための支援な ど、相談者の状況に応じた支援を行う。	·生活困窮者自立支援相談 〈生活支援相談員1名配置〉 新規相談件数(実件数) 10件 継続案件相談等件数 1件 ※生活保護相談延件数226件	・生活支援員の未配置が長期化したため、生活保護相談で対応を行うとともに、状況に応じてパーソナルサポートセンター等と連携し、家計相談や住居確保給付金を含めた支援を行うことができた。 ・FMにいつ等を活用し、相談窓口や制度の周知を行った。 ・次年度も就労、住居確保、家計改善、食糧支援などをの支援を継続していく。
8	生活困窮者 緊急支援事業		緊急的に支援が必要な生活困窮世帯 に対し、食糧物資等の援助及び相談支援、生活支援を行う。	・生活困窮者からの相談により聞き取りを行い、パーソナルサポートセンター等 関係機関と連携して支援を行っている。 申請件数 3件	・パーソナルサポートセンター等関係諸機関と連携して相談支援や食糧支援などを実施した。次年度も同様に事業を実施していく。

4-② 適切な情報提供体制づくり

_	<u> </u>	AL DE G. H. I. INSTITUTE DE LE					
	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)		
	1 点字広報等 発行事業		視覚障がい者へ点字による情報提供 を行う。 (秋葉区社会福祉協議会へ委託)	・カレンダーの発行(12月末)・JR時刻表の発行(3月末)点字 利用者:8人	・ボランティア団体の育成を目的に実施してきたが、概ね自立しており達成されていることと、発行物に公益財団法人等が作成配布する代替手段があるため、令和6年度で事業を廃止とする。		
	2 心配ごと 相談所の周知	社協	相談所を週2回開設し、市民の悩みを 受け止め関係機関につなぐ。	・相談件数:180件 ・周知:区役所だより(月2回)、区社協だより、区社協ホームページ掲載・相談員研修会:令和6年12月2日(月)/講師 総合リハビリテーションセンター・みどり病院 認知症疾患医療センター 副センター長 川井 紀子 氏	・相談内容に応じて、関係機関へつなぎ、連携した支援になった。 ・区社協だよりや区役所だよりへ掲載し、周知・広報活動を実施する。 ・相談者に寄り添った相談対応を継続する。		

資料1

4-② 適切な情報提供体制づくり (つづき)

	事業名	担当	事業概要(令和6年度)	令和6年度実施状況(令和6年12月末現在)	評価・課題(令和6年度)と次年度計画(令和7年度)
3	障がい者 基幹相談支援 センター秋葉 の運営	がい福祉係	一般的相談支援に加え、施設からの 地域移行促進に係るコーディネート業務 や、権利擁護・虐待防止にかかる啓発、 研修、相談支援事業所への研修を通じ た人材育成や助言指導なども行う。 また、障がい等を理由とした差別に関 する相談対応、障がい者が安心して地 域で暮らせる体制を整える。	・「障がい者基幹相談支援センター秋葉」 相談員5名(担当エリア:秋葉区、江南区、南区) 相談件数 4,550件 (訪問323件、来所211件、電話3,573件、その他443件) ・個別支援(ケース)会議 110回 ・会議、研修会への参加 310回	・障がいのある人もない人も安心して地域で暮らせるように、総合的な相談窓口として更に周知を行う。
4	社協の相談窓 口体制整備	社 協	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)を配置し、個別課題等に対する検討・解決を図り、関係機関と連携をしながら積極的にアウトリーチを進める。 ひとり親世帯への食料支援を実施する。また、昨年度ひとり親世帯の福祉に関するアンケート調査を行った結果をもとに、地域の関係団体等と連携し、地域づくりを行う。	・ひとり親世帯への食料支援(配布数281世帯) ・ひきこもり家族支援: (1)ひきこもり家族の懇談会 ファシリテーター: 長岡崇徳大学客員教授、秋葉区健康福祉課保健師、 秋葉区社協 実施:3回(6/22、10/24、2/15) (2)ひきこもりに関する講座 日時:10月24日(木)13:30~ 講師:長岡崇徳大学 客員教授 斎藤 まさ子氏 内容:「ひきこもりの理解と支援」 (3)ひきこもりを援連絡会 日時:令和7年3月11日(火)14:00~ ・地区担当との協働により、個別課題等に対応。 ・地域アセスメント ・CSW定例会(本部開催への参加、活動報告及び事例検討随時) ・各種会議等への参加	・秋葉区役所児童福祉係の協力によりひとり親世帯へ 食料支援を実施した。次年度も継続し、困りごとを抱え る世帯への支援に繋げていく。 ・令和5年度に実施したひとり親世帯の福祉に関するア ンケートを基に、ひとり親世帯が抱える課題について、 今後も支援できるよう検討していく。 ・関係機関と連携し、自治会・町内会・民生委員等の協力をいただきながら、課題を抱える方への個別支援および地域支援を実施。 ・次年度も、地域住民・関係機関との連携を密に、取り 組みを進める。